



ギュスターヴ・クールベ〈シヨン城〉1874年  
「クールベ美術館展」より

TOMO no KAI NEWS

Toyohashi City Art Museum

# FU 風伯 HAKU

## 総 会

## 平成17年度美術博物館友の会総会

## 【平成16年度事業報告】

## 1. 美術展の鑑賞

(豊橋市美術館の展覧会(有料展)の鑑賞)

- (1) 歴史の風景-道徳からのメッセージ- (会期:4/24~5/30 2,885人)  
友の会入場者:68人(普通:64 特別:3 賛助:1) 国録贈呈:2冊
- (2) 道かなる旅路 平松礼二展 (会期:6/5~7/4 8,195人)  
友の会入場者:225人(普通:188 特別:26 賛助:11) 国録贈呈:25冊
- (3) 院展を導いた4人の巨匠-大観・春草・観山・武山-展 (会期:10/7~11/9 13,848人)  
友の会入場者:305人(普通:232 特別:42 賛助:31) 国録贈呈:40冊
- (4) 新潟市美術館所蔵名品展 20世紀絵画の魅力 (会期:2/19~3/20 3,317人)  
友の会入場者:191人(普通:163 特別:21 賛助:7) 国録贈呈:12冊

## 2. 二川宿本陣資料館の見学

(会員証での無料入館) 入館者:29人

## 3. 研修旅行(美術館、博物館、特別展等の見学)

- 第1回 5月11日(火)~12日(水) 1泊2日 参加者:41名  
鎌倉方面(神奈川県立近代美術館<葉山館>、鎌木清方記念館ほか)
- 第2回 11月4日(木) 日帰り 参加者:75人  
奈良方面(東大寺、奈良国立博物館「法隆寺展」)

## 4. 講演会

総会記念講演会:5月1日(土)午後2時~ 参加者:92名(一般入場者を含む)

講師:渡 紀彦氏(建築家)

演題:最近の国際公開コンペの方法と動向

【台湾における国際コンペNew Taiwan by Designの実例等】

## 5. 講座等・イベント

□土曜美術サロン:6月5日(土)午後1時30分~

講師:平松礼二氏(日本画家) テーマ:平松礼二「路」~夢ごよみ~

参加者:95名

□友の会ミニコンサート:7月25日(日)午後7時~

加藤調子マリンバ&amp;パーカッション~大地からあなたへ~

参加者:89名

## 6. 会報の発行

第52号 平成16年4月20日 第53号 平成16年7月20日

第54号 平成16年10月20日 第55号 平成17年1月20日

## 7. ボランティア活動

- ・会報「風鈴」の編集、発送
- ・美術博物館企画展ポスター等の発送

## 【平成17年度事業計画】

## 1. 美術展の鑑賞

(豊橋市美術館の展覧会(有料展)の鑑賞)

- (1) 京都国立近代美術館所蔵名品展「京都」近代日本画のあゆみ (会期:6/11~7/10)
- (2) ケールベ美術館展-ケールベと周辺の画家たち- (会期:7/30~8/28)
- (3) 市制施行100周年記念事業・築城500周年記念「吉田城と城下町」 (会期:10/1~10/30)

## 2. 二川宿本陣資料館の見学

(会員証により無料入館)

## 3. 研修旅行(美術館、博物館、特別展等の見学)

- 第1回 5月6日(金) 日帰り 参加者:78名  
箱根方面(ポーラ美術館開館3周年記念「印象派」展ほか)
- 第2回 (秋に実施予定)

## 4. 講演会

総会記念ミニコンサート:5月14日(土)午後4時~

杉浦 充「独奏ひとりごと」

## 5. 講座等・イベント

土曜美術サロンほか

## 6. 会報の発行

第56号 平成17年4月20日 第57号 平成17年7月20日

第58号 平成17年10月20日(予定) 第59号 平成18年1月20日(予定)

## 7. ボランティア活動

- ・会報「風鈴」の編集、発送
- ・美術博物館企画展ポスター等の発送

## 【平成16年度一般会計収支決算】

|      | 繰越金    | 421,401   | 前年度からの繰越金   |
|------|--------|-----------|---|
| 収 入  | 会費収入   | 2,964,800 | 賛助会員 69,200,000円×43人<br>特別会員 69,100,000円×68人<br>普通会員 69,3,000円×440人<br>+ (家族) 69,2,000円×29人<br>高校生会員 69,1,500円×6人<br>風鈴会員 69,1,200円×39人 |
|      | 雑収入    | 207       | 619人  |
|      | 戻 入    | 115,640   |   |
|      | 収入合計   | 3,501,048 |   |
| 支 出  | 鑑賞会費   | 663,010   | 歴史の風景-道徳からのメッセージ展-<br>道かなる旅路 平松礼二展<br>院展を導いた4人の巨匠-大観・春草・観山・武山-展<br>新潟市美術館所蔵名品展 20世紀絵画の魅力<br>二川宿本陣資料館入館料                                 |
|      | 講演会費   | 106,688   | 講演会講師謝礼等  |
|      | 研修会費   | 182,333   | 土曜サロン・イベント等開催経費   |
|      | 部会費    | 20,945    | 事業・広報・研修旅行等部会活動費  |
|      | 会議費    | 28,400    | 役員会・部会等経費   |
|      | 印刷費    | 891,540   | 会報・封筒・会員証等印刷代   |
|      | 通信費    | 250,256   | 会報・各種案内等郵送料   |
|      | 事務費    | 518,520   | 事務局事務賃金等  |
|      | 事務用品費  | 24,159    | 文具等消耗品の購入   |
|      | 資料費    | 59,240    | 友の会文庫用美術雑誌の購入   |
| 雑品費  | 40,000 | 会員証作製用パウチ |   |
| 雑 費  | 12,450 | 会費払込手数料等  |   |
| 予備費  | 0      | 特別会計一時支替金 |   |
|      | 支出合計   | 2,918,266 |   |
| 収支差額 |        | 582,462   | 次年度へ繰り越し  |

## 【平成16年度特別会計収支決算】

|      | 繰越金      | 1       | 前年度からの繰越金   |
|------|----------|---------|---|
| 収 入  | 展覧会入館手数料 | 746,159 | 平松礼二展<br>院展を導いた4人の巨匠-大観・春草・観山・武山-展                      |
|      | 雑収入      | 1       | 利息  |
|      | 収入合計     | 746,161 |   |
| 支 出  | 展覧会入館料   | 49,680  | 道かなる旅路 平松礼二展<br>院展を導いた4人の巨匠-大観・春草・観山・武山-展<br>デジタルプロジェクト |
|      | 寄附金      | 281,400 |   |
|      | 法人税等     | 70,000  |   |
|      | 雑 費      | 2,600   | 振込手数料   |
|      | 予備費      | 0       |   |
|      | 戻 入      | 115,640 |   |
|      | 支出合計     | 519,320 |   |
| 収支差額 |          | 226,841 | 次年度へ繰り越し  |

## 【平成17年度一般会計収支予算】

|      | 繰越金    | 582,462   | 前年度からの繰越金   |
|------|--------|-----------|---|
| 収 入  | 会費収入   | 3,017,500 | 賛助会員 69,200,000円×40人<br>特別会員 69,100,000円×60人<br>普通会員 69,3,000円×500人<br>+ (家族) 69,2,000円×25人<br>高校生会員 69,1,500円×5人<br>風鈴会員 69,1,200円×50人 |
|      | 雑収入    | 5         | 600人  |
|      | 収入合計   | 3,509,967 |   |
| 支 出  | 鑑賞会費   | 900,000   | 京都国立近代美術館所蔵名品展<br>ケールベ美術館展<br>吉田城と城下町展<br>二川宿本陣資料館入館料   |
|      | 講演会費   | 120,000   | 講演会等の講師謝礼・旅費等   |
|      | 研修会費   | 200,000   | 土曜美術サロン・イベント等開催経費   |
|      | 会議費    | 50,000    | 役員会・部会等経費   |
|      | 部会費    | 150,000   | 事業・広報・研修旅行等部会活動費  |
|      | 印刷費    | 1,000,000 | 会報・封筒・会員証等印刷代   |
|      | 通信費    | 400,000   | 会報・各種案内等郵送料   |
|      | 事務費    | 500,000   | 事務局事務賃金等  |
|      | 事務用品費  | 100,000   | 文具等消耗品の購入   |
|      | 資料費    | 100,000   | 友の会文庫美術雑誌の購入  |
| 雑品費  | 50,000 |           |   |
| 雑 費  | 20,000 | 会費払込手数料等  |   |
| 予備費  | 9,967  |           |   |
|      | 支出合計   | 3,559,967 |   |
| 収支差額 |        | 0         |   |

# 街、地域と呼吸する美術博物館を目指して

—作品の魅力をもっと引き出すことのできる場所として—

豊橋市美術博物館長 金原宏行



本年4月より、豊橋市美術博物館長をお引き受けすることになりました。

この美術博物館は、名称から分かりますように、美術と歴史の両面の機能が有機的に総合された施設として、藤井前館長をはじめ

多くの方々の努力により、展覧会に、収集活動にと多年にわたって年輪を重ねてきました。

今日の社会変化のなか、全国の美術館や博物館がその対応に追われていますが、美術館の役割のひとつとして、質の良い鑑賞者を育てることや、博物館では、歴史の現場に行き行って感じる空気、たとえば無言である土器から見えてくる歴史の感覚や観察眼を学んで自ら住んでいる郷土のアイデンティティの形成に資するという目的には、いささかの変化もないと思われまふ。その二つの特徴をそれぞれ生かしながら、市民を楽しんでもらう工夫をすることが大切なこととなります。

ご承知のように、わが国では少子化と高齢化が驚くべき早さで到来しています。そのため様々な分野で転換期を迎えており、こうした傾向から、環境と福祉、そして教育という3つの分野がますます重要になります。教育については、従来の学校教育に加え、若年からシルバー世代まで、年齢を問わず生涯をかけて学ぶということが普通になってきています。また、ものの豊富さだけでなく、心の豊かさを多くの市民が求めています。

ここに美術博物館の果たすべき役割があり、多様な住民に新しいアートシーンを演出する場所、また文化情報の発信地として期待されるゆえんがあります。このため街とそこに生活する地域住民とが一体となって活動できる場所となるために、一般の方々、主婦層ばかりでなく、若い人々にも来ていただけるような様々なプログラムを用意する必要があります。

魅力的な講座やワークショップ、音楽会によって、今まで足を運んだことのない人やこうしたものに関心のない若人、またシルバー世代にも働きかけていく積極的な姿勢と活発な活動が、ますます大事になりまふ。新しい活動が理解され、市民に溶け込み、浸透していけば、市民を刺激し、この街にもっと活気が出てくると思われまふ。

一方、時代の移り変わりにともなう、美術や歴史の世界が大きく広がっています。質の高いものを単に提供するという旧来の方法では、もう通用しません。ですから若者に支持されている新しい傾向にも目配りしながら適切に対応できたらと考えています。グローバル化、国際相互の理解の推進が叫ばれていますから、作品(資料)という具体的なものを提示する美術博物館の国際交流に対する役割も大きなものがあります。

こうして多様な展覧会を開催するばかりではなく、学校や街をまきこんで、敷居が高いといわれ、敬遠されがちな市民と作品の距離を少しでも近づけていく努力が要求されます。ギャラリートークやワークショップなど普及活動にも力を注ぐことによって、作品のおもしろさや魅力をもっと引き出したい。「作品(資料)は市民みんなで享受すべきもの。きっかけさえあれば、道は一人一人がつくりだす」を信条に市民と一緒に作品を共有できる喜びを分かちあう場所でありたい。それには、作品、それを支えるスタッフ、観客が一体となる場として、館で働く人はみんな事業活動の広報マンでなければなりません。

友の会の皆様には、まず「美術博物館は、なるほどおもしろい。新しい、ためになる情報を発信している」と実感してもらふこと。それが会員と美術博物館との強い絆となります。来年には新館の設計コンペが行われ、多くの作家を育て、作品を育んできた伝統ある豊橋に、新しい文化の1ページが加わります。

街と市民がいっしょに呼吸し、作品の魅力をもっと引き出すことのできる美術博物館となるために、友の会員の皆様の一層のご支援、ご協力を賜りたいと思ひます。

## 《プロフィール》

1945年、浜松市生まれ。早稲田大学大学院修士課程(美術史専攻)修了。浜松市美術館、茨城県近代美術館副参事を経て、現在は静岡市にある常葉学園大学教授(博物館学・美術史)。展覧会を100以上オーガナイズし、学生には「先生はミュージアムを愛していますね」といわれるという。著書に「定本 嵐山」(郷土出版社)、「江戸から明治へのさまざまな美術」、「近代日本美術の伏流」(沖積舎)など。



# ポーラ美術館と山のホテル

清水 三智子 (585)



〈春の見学会〉は、爽やかな5月の連休の谷間に、箱根のポーラ美術館と山のホテルで、私の希望条件に合い、早速参加しました。早朝より張り切って箱根へと出発し、車中では学芸員の講話やメトロポリタン美術館のビデオを見たりして、今日の出会いに胸をときめかせました。

箱根には八重桜等が咲き、一足遅れの春を楽しみつつ、お昼前に芦ノ湖畔に建つ由緒ある山のホテルに到着しました。湖へとつながる広大な庭園には、丁度つつじや石楠花の花が咲き始め、豊かで美しい自然の中を散策することができました。お昼は見事な眺望にリラックスしてフランス料理をいただきました。

ポーラ美術館は国立公園内の仙石原小塚山の麓にあります。「箱根の自然と美術の共生」をコンセプトに、大地にすり鉢のような穴を掘り、免震や排水等安全性を考えた地上2階地下3階の建物が、森の中に包み込まれるようにあります。道路から“ひめしゃら”の林の中のブリッジを渡るとガラス張りの2階エントランスです。小塚山の緑を眺めながらエスカレーターで下ると1階のホールに入ります。地下1階の講堂で美術館と



つつじ咲く山のホテル庭園

開館3周年記念展〈印象派〉の説明を聞きました。特に展示には最新の光ファイバー照明を効果的に使っているそうです。

展示室は地下1階と地下2階にあり、今回は収蔵品9500点の中心コレクションである印象派の展示に運良く



ポーラ美術館のエントランス

あたりました。展示室に入ると、薄暗い中で絵画が浮き出るように生き生きと見え、絵の中に誘い込まれるような幻想的な気持ちになりました。ルノワールの「レースの帽子の少女」は叙情的で甘美な女性像、モネの「睡蓮」の二点は微妙な色彩のハーモニーと水面の光景の美しさに見入りました。私の大好きなピアノの世界のドビュッシーの「亜麻色の髪の乙女」や、ラヴェルの「水の精オンディエヌ」が同じ世界で共鳴しているようでした。調和のとれたやさしい流れや神秘的な水面の変化を、いつか私なりに音の世界で表現してみたいという夢が湧いてきました。

箱根の大自然と世界の名画でリフレッシュしてパワーをいただき、明日への夢がふくらみ、思い出に残る見学会でした。

5月6日 78名参加



ポーラ美術館講堂で佐藤学芸員よりレクチャー

# A La Rencontre de Courbet

## クールベ美術館展

～ギュスターヴ・クールベと周辺の画家たち～

Collection de l'Institut Courbet et du Musée Courbet  
dans la Maison Natale du peintre Ornans-France

2005.7.30(土) - 8.28(日)

開館時間＊午前9時～午後5時(月曜日休館)

会場＊豊橋市美術博物館1階展示室

主催＊豊橋市美術博物館・中日新聞社

協力＊クールベ美術館



《洗濯を運ぶ》 ロマン主義の恋人逢を題材とした本作は、初期の作品。クールベはしばしば自らと恋人の姿を放つオルナンの山脈のなかに置いた。

《仔山羊を抱く娘》 クールベはロマン主義の画家のように女性を理想化することなく、野禽動物と同様生き生きとした。彼はこのモデルを小さなバックラント(バックカスに仕える従女)とよんでいたという。

この展覧会はクールベ美術館の収蔵品より、油彩画・素描・版画・資料を通じてクールベの画業を展覧するものです。クールベ作品ばかりでなく、弟子との共同制作や影響を受けた画家たち、さらにはビュッフェ等の後代の作家がクールベに捧げたオマージュ作品などもご紹介いたします。クールベに出会う「A La Rencontre de Courbet」、このまたとない機会をお見逃しなく。

### 記念講演会

「クールベ、人と芸術」  
中村隆夫氏(多摩美術大学教授)  
8月7日(日)午後2時～  
1階講義室(入場無料)

### ギャラリー・トーク

8月13日(土)午後2時～  
8月20日(土)午後2時～  
＊当館学芸員による作品解説  
＊入場券が必要です



ギュスターヴ・クールベ  
(1819-1877)

1819年にフランス東部の小都市オルナンに農場経営者の息子として生まれたギュスターヴ・クールベは、豊かな環境に生まれ、野山を駆け回る少年期を過ごしました。スイス国境に近いオルナンの深い森、ジュラ山脈やルー川にそそぐ溪流といった荒々しい景観は、後に自然への畏敬に満ちたクールベ独自の視点を確立したといえるでしょう。

20歳でパリに出たクールベは、現実をありのままにとらえて描き出す「写実主義(リアリズム)」を標榜。《オルナンの埋葬》《画家のアトリエ》といった代表作は歴史画を重視する古典主義やロマン主義が主流であった当時の画壇で物議を醸しますが、次第に野趣あふれる狩猟画や海景画で評価を得るようになります。

画家としての名声が高まる一方で、政治にも関心を示したクールベは、パリ・コミューンへの参加によって投獄され、財産も没収、亡命を余儀なくされます。晩年は心身ともに衰弱してゆきますが、そうした失意の中でも亡命先のスイスで《シヨン城》(本展出品作:表紙参照)等の代表作を生み出しました。

クールベのオルナンの生家は現在、クールベ美術館として初期から晩年に至る作品と関連資料、周辺の画家達の作品を収蔵・公開しています。



《集ついた男》 軍医であったクールベは数多くの自画像を描いている。本作は失意して絶望する自らの姿を描いたもの。



少年時代のクールベを養ったオルナンの風景。クールベは美しい時代も画家として名を成した後も、田舎を頻りに訪れてその風物を描いている。本館にはオルナンの風景も数多く含まれている。

## 豊橋市制施行100周年記念事業・築城500周年記念展

### 吉田城と城下町

平成17年10月1日(土)～10月30日(日)

10月10日(月・祝)は開館し、翌11日(火)は休館



吉田城の歴史は1505年の牧野古白の今橋城築城以来、今年で500年を迎える。全国各地に伝わる吉田城絵図をはじめ、歴代城主の関連資料や石垣調査など最新の情報をまじえて新たに吉田城のみどころを紹介。

記念講演会／10月1日(土)午後2時～ 市役所13階講堂(入場無料)  
小和田哲男氏(静岡大学教授)

シンポジウム／10月8日(土)・9日(日) 豊橋市公会堂(入場無料)

歴史散策／10月15日(土)午後2時～

ギャラリー・トーク／10月10日(月祝)・22日(土)午後2時～(入場券が必要)

## 自然と親しむ

高橋典子 (588)



昭和56年から写真を撮っています。洋蘭の名前を覚える為と記録を残すために始めたことですが、先生の指導を受けるようになってからは、光や風を感じるような写真が撮れるようになり、心が豊かになりました。

家の庭には、野の花が咲き、虫や小鳥が遊びに来るので、撮影の機会には恵まれています。

雨上りのチューリップの花の雫をマクロレンズで撮ります。雫チューリップが逆さにうつり、なんと可愛らしいこと、そこからは匂いまで感じられました。樹々の間の蜘蛛の巣が虹色に輝き、環境や背景により、糸

の色が変化したり、レンズを通して蜘蛛の糸の美しさに惚れているうちに、蜘蛛と話が出来た事もありました。

10年前の冬の寒い日、散水用のバケツの水が凍っていて、氷の裏面は水柱になっているのに気づき、その美しい模様に胸がときめいて、今朝は氷ができたかしらとか、太陽がやさしく照らしてくれるかしらと、祈るように冬の朝を楽しみました。人間では作れない繊細な自然の美は、神からの授かりものでしょうか。

アラスカの旅では、エメラルドブルーの氷塊に何10羽の可愛い小鳥が乗って流れていきます。アルプスの崇高優美とは違った安らぎの世界を見たようで、感動の連続でした。毎日がどんとどんと過ぎて行きます。美術館で、音楽会で、至福の時を過ごし、感性を磨いていきたいです。

## モネの睡蓮 (スイレン)

芳賀裕崇 (778)



豊橋総合動植物公園内にある「モネコーナー」をみなさんご存じでしょうか。この「モネコーナー」は平成8年に植物園開園を記念して日本で初めてフランスのモネガーデンより「睡蓮」の絵で有名な画家、クロード・モネが描いたスイレン、シダレヤナギ、フジなどを譲り受けて展示されているコーナーです。

スイレンは毎年、ゴールデンウィーク頃から9月頃まで赤、黄、桃、白の4色の花を咲かせて、モネコーナーを訪れる人の目を楽しませています。おそらく来園したみなさんは、あのフランスの有名な画家、クロ

ード・モネに由来するスイレンが展示されていることはコーナーの名前から想像がつくと思います。フランス・ジベルニー村にある、モネガーデンから直接譲り受けて展示されていることを思えば、モネの作品に対してより親しみが持てるのではないのでしょうか。

平成10年には日本におけるフランス年の公式イベントとして、モネのスイレン写生大会が開かれました。そして、優秀作品がモネガーデンに展示されました。豊橋総合動植物公園では写生大会が毎年開かれており、モネコーナーを題材として描いている子どもたちもいます。この豊橋から「日本のモネ」が誕生するかもしれません。今後に期待したいと思います。いつかフランスのモネガーデンに行き、モネの描いた本物のスイレンを自分の目で見たいと思っています。

## サポーターの力

坂口幹子 (1189)



2005年6月8日夜、大袈裟に言えば日本中が、興奮に包まれたのではないのでしょうか。

私は丁度イスタンブール、ブルガリア世界遺産を巡る旅行から前日帰国したばかりで、「友から友へ」の原稿を気にしながら、テレビの日本対北朝鮮戦に釘付けになりました。このゲームは一切の観客を締め出してサポ

ーターの応援無しで、第三国で行なわれるという異常なものでしたが、見事な勝利で三大会連続となるサッカーW杯出場権獲得という快挙を成しとげました。更にもう一つ私が驚き感動したのは、入れもしないタイの競

技場に、何百人ものサポーターが、わざわざ出掛けて行き、その周囲を取り囲み必死に鳴物入りで応援している姿でした。勿論、今回の成果は選手、監督、スタッフ、フロントの皆様方の努力の賜物と思っていますが、この現地での応援を含め、毎回競技場を揺るがす大応援というサポーターの力無しでは、到底達成出来なかったのではないかと思います。

翻って、この「友の会」は美術博物館のサポーターです。その一員である私が出来るとは、まず一人でも多くの新しい仲間作りと考えて、親しい友人に声を掛けることから始めています。新しい美術博物館建設という永年の夢が現実のものになりつつある今こそ多くの仲間と活動の輪が広がればどんなにすばらしいことでしょう。



## 豊橋市美術博物館収蔵品展 顔がお

同時開催＝小企画展 中村正義の顔

平成17年7月23日(土)～9月18日(日)

会場＝2階展示室4・5 (入場無料)

親子鑑賞ガイド

夏休み期間中の毎週水・土曜日  
(ただし、8月31日はのぞく)午後2時～

豊橋市美術博物館で収蔵する美術資料より「顔」を主題にした作品を紹介いたします。岸田劉生を中心とする草土社同人の緻密な肖像画から、寛忠治のペン画による自画像、水谷勇夫や芥川沙織、三尾公三らによる多様な「顔」の表現をご覧ください。また、「中村正義の美術館」所蔵の「顔」による小企画展を同時開催いたします。

会期中は恒例となった夏休みワークショップを開催。中村正義の「顔」をモチーフにした内容から、ユニークな顔のマングラをつくる井上雅文氏を招いて制作を行うプログラムをご用意しました。下記により小学生の参加を募集中です。なお、子供用のワークシートの設置や、ボランティアによる親子鑑賞ガイドも予定しておりますので、お誘いあわせの上、ご来場ください。



平成17年度に開催された「顔」はるかにあたるワークショップの様子。

- ①8月10日(水) 中村正義の「顔」にカラダを描こう
- ②8月11日(木) 中村正義の「顔」を紙粘土で再現しよう
- ③8月12日(金) 井上雅文氏とともに「顔」をつくろう

時間/いずれも午後1時～4時30分

参加料/500円

対象/①②は小学1～4年生、③は5、6年生

申込み/0532-51-2882(定員30名が集まりしだい締切)



完成した作品は8月16日、28日の期間、2階ラウンジで展示致します。右は平成14年度の様子。

## 第2回 sebone(せぼね)展 ～「街・人・店・アート」のコラボレーション～

豊橋駅へのひとすじの線。水上ビルは、都市化の中で生まれた巨大な生き物の背骨のようだ!

期間：平成17年9月24日(土)～10月2日(日)

シンボルマーク



主催：gggyutt (ギュット)

| 会場                        | 内容              | 時間                         |
|---------------------------|-----------------|----------------------------|
| 水上ビル<br>(豊橋ビル・大豊ビル・大手ビル)  | 野外・屋内作品展示       | 10:00～19:00                |
| 狭間児童公園                    | ワークショップ         | 10:00～19:00                |
| MEIHOビル 5階                | 屋内作品展示          | 10:00～19:00                |
| Sala豊橋駅前広場<br>(豊橋西武百貨店跡地) | ライブ<br>パフォーマンス等 | 15:00～17:00<br>18:30～20:30 |

(絵画・写真・デザイン・ファッション・建築・メディアアートなど、ジャンルレスな展覧会)

## 第7回 遠州横須賀街道ちっちゃな文化展 ～町並みと美の晴れ舞台～

かつて「横須賀街道」と呼ばれた古い城下町で、街道沿い一帯・50カ所以上もの町屋を開放し、全国から集まったアーティストたちが思い思いに作品を展示する。作家たちが町民の日常と交わり、溶け込み、環境にやさしい文化的なイベント。“遠州横須賀ルネッサンス”へいってみよう!

期間：平成17年10月21日(金)・22日(土)・23日(日)

13:00～17:00 9:00～21:00 9:00～17:00

会場：掛川市大須賀町内(横須賀街道沿線及びその周辺)

主催：遠州横須賀倶楽部 (TEL 0537-48-2262・大須賀町商工会内)

交通のご案内

●お車にて

袋井インターから約20分  
掛川インターから約20分

●JRにて

新幹線掛川駅より東海道本線に乗り換え、袋井駅より静鉄バス横須賀方面にて新横須賀バス停下車

## 収蔵品紹介

じがそう  
[自画像 23]

寛 忠治 ● KAKEHI, Chūji (1908-2004)

1930(昭和5)年 紙、インク  
42.0cm×34.0cm

愛知県一宮市に生まれた寛忠治は特定の美術団体やグループに属さず、ほとんど独学で絵画技術を学び、作品の発表はわずか数回程度という孤高の画家である。

その描く対象は限られており、自画像(1925~57年)をはじめ、存命中に描き続けた母(1930~40年)、素描による風景(1960年代)、油彩による花(1950~60年代)、銅版画・素描による愛猫(1980年代)など、常に身近なところに描く対象を求めてきた。その中でも傑出した存在は自画像である。自画像の制作は寛が17.8歳の頃から始められた。この頃、寛はサンサシオンの洋画研究所を退き、鈴木不知の名古屋洋画研究所

で学びはじめてダ・ヴィンチやミケランジェロ、デューラー、レンブラントなどの画集から強い影響を受けている。当初の自画像は墨を用いた表現主義的な激しい線描で描かれたが、1930年にはこの作品のように茶褐色のインクを用いた写実的な描写になった。

怒気を含んで膨張した顔を正面から画面一杯にとらえ、見開いた両眼が此方を睨め付ける寛の自画像は単なる写生にとどまらない迫力を宿し、一度目にしたら忘れられない形相である。こうした表情は誇張されたものではなく、息を止め、精神を集中し、うなり声を発しながら描くという制作姿勢による。筆圧が強く制作中には何本もペンを折ったというエピソードもこの画が宿す気迫を裏付けるものである。以後、コンテや木炭による自画像、藤蔓の冠をかぶった自画像などのバリエーションを生むが、本作品は様式の完成期——気力みなぎる22歳の作にあたる。NO.23と番号のつけられた本作品の類似作は多く、24点の作品が確認されている。「同一の素材で同一のモチーフを繰り返し、繰り返し描き続ければ、きっと何かが掴めると考え、自画像に取り組んだ」と自身が語るように、彼の自画像は様式の複写ではなく、一枚一枚がまさに真剣勝負であり、自己と向き合い、自らを探求する道程に生み出されたものである。

(豊橋市美術博物館学芸員 丸地加奈子)

寛忠治「自画像23」は、7月23日~9月18日の期間  
収蔵品展「顔」(2階展示室/入場無料)にて公開中

## 会員更新のお願い

更新手続がお済みでない方はお早めにお問い合わせください。再度、郵便振込用紙の送付をご希望の方は美術博物館までご連絡ください。(TEL 0532-51-2882 FAX 0532-56-2123)

## 編集後記

■豊橋市美術博物館は4月から新館長に金原宏行氏をお迎えしました。また豊橋市美術博物館友の会も役員任期の更新にあたり、会長以下続行の役員にフレッシュなメンバーを加えて友の会組織を強化再編し、去る5月14日の総会で承認されました。これで車の両輪が揃い、新しい美術博物館建設へむけての活動に拍車がかかることでしょう。

「風伯」の編集にも新たなスタッフが参加しました。勉強しながら少しずつ良いものになってまいります。内容は、美術博物館の催事案内や友の会関係行事の予告と報告、会員の一筆、地域の文化財やアトリエ紹介など、なるべく会員の皆様からのご要望に沿っていきたいと思っております。

これから行われる催事の解説をしてほしい、済んでしまったものを知らされても遅いという声もあるのですが、研修旅行などの活動報告はこれからも掲載いたします。編集をしていますと、各人微妙に文体や言葉遣い等が違い、直すべきかどうか迷うときがあるのですが、おおむね原文を尊重する方針です。どうぞこれからも宜しく、そしてどんどんご意見をお寄せください。(N・K)